

**2018(平成 30)年度
日本風力エネルギー学会 定時社員総会**

日 時 2018(平成 30)年 5 月 28 日 (月) 15 : 15 ~ 16 : 30
会 場 科学技術館 第 3 会議室 (6 階)

次 第

I 総会

1. 開会
2. 議長 (会長) 挨拶
3. 総会成立確認
4. 議事

審議事項

- | | | |
|-------------------------|------------|----|
| (1) 2017(平成 29)年度事業報告 | 資料 1 . . . | 1 |
| (2) 2017(平成 29)年度収支決算報告 | 資料 2 . . . | 5 |
| (3) 2017(平成 29)年度会計監査報告 | 資料 3 . . . | 10 |
| (4) 役員(理事・監事)の選出 | 資料 4 . . . | 11 |

報告事項

- | | | |
|---------------------------|------------|----|
| (5) 2018(平成 30)年度事業計画 (案) | 資料 5 . . . | 13 |
| (6) 2018(平成 30)年度収支予算 (案) | 資料 6 . . . | 15 |

5. 議長 (会長) 挨拶
6. 閉会

II 表彰

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. 功 勞 賞 | 江口英範様、遠藤 昭様、菊山功嗣様、谷垣三之介様 |
| 2. 論 文 賞 | 槌屋治紀様 |
| 3. 優秀発表賞 | 一柳絵美様、加藤茉里様、森山喬史様 |
| 4. ポスター賞 | 斎藤亮太様ほか、嶋田 進様ほか、和田光樹様ほか |

☆ 総会終了後、17 : 15 より地下の食堂「パークレストラン」で懇親会 (無料) を開催します。奮ってご参加ください。

(自：2017(平成29)年4月1日 至：2018(平成30)年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

経済産業省は、今年4月10日に開かれた有識者会議において2050年に向けた長期エネルギー戦略の素案を示しました。ここでは、温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」において長期目標としている2050年を視野に置いたもので、「脱炭素化」を掲げ、原子力発電は脱炭素化の選択とし依存度を低減する方針とともに、再生可能エネルギーは「経済的に自立した主力電源化を目指す」と明記されています。これを踏まえ、これまで以上に風力エネルギーの加速的な導入を図らねばなりません。

世界の風力発電導入量は2017年末に約53,960万kWに達していますが、我が国の風力発電の導入量は約340万kWで、世界の0.6%に留まっています。風力発電の認定設備容量は、固定価格買取制度(FIT)が導入されて以降、2017年3月末までに697万kWとなっていますが、その10%程度が導入されているに過ぎないこと、また、環境アセスメントの実施案件は2017年11月の時点で約1,564万kWもあることから、計画中の風力発電設備が確実に建設されれば、大幅な導入が期待されます。一方、認定の仕組みが「設備認定」から「事業計画認定」への変更が検討されており、今まで以上に風況等自然条件の事前調査や適切な保守点検・維持管理の実施が重要であるとともに、中長期的な価格目標としてFITからの自立化が求められています。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの技術開発が必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2017年度には、新たに2社の特別団体会員が加わり、10社となりました。今年は、本会創設40周年を迎え、会員への記念バッジの配布、40周年記念号(第123号)の発刊の他、風力発電の加速的な導入拡大に対する本会の役割を討議した座談会の開設、本会に対する意見・要望等の会員へのアンケート調査等々、多くの行事を実施し、シンポジウムでその結果を発表致しました。また、人材育成の観点からシンポジウムに英語セッションを設置するとともに、本会のPR・会員の募集を目的とした第6回国際風力発電展に出展を致しました。さらに、今後の風力発電に係る技術開発のシーズを発掘することを目的としたNEDO委託調査も実施致しました。また、これまでと同様にホームページの充実、2016年までの学会誌・論文集及び風力エネルギーシンポジウム予稿集のJ-STAGEへの公開等、会員サービスの向上に努めるとともに、風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、産業技術総合研究所及びエコ・パワー株式会社のご協力を得て福島再生可能エネルギー研究所及び会津若松ウインドファーム見学会を開催しました。このように、2017年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年度は、前述した座談会とアンケート調査の結果からみえてきた本会の取り組むべき方向性として、社会貢献・人材育成・学会活動の活性化・研究促進の見地から、シンポジウムの英語セッションの開設等、昨年度の取り組みを継続するとともに、若手スクールの開設、研究会の立ち上げ、風力エネルギー教材の作成等に取り組めます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月29日に開催し、平成28年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、29年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5月29日の総会前に開催し、総会の議案内容について報告するとともに、40周年記念行事及び学術活動・会員サービスの向上への取り組みに関して意見交換を行った。
- ・理事会は、これまで計7回(4月17日、5月29日、7月19日、9月14日、11月7日、1月18日、3月9日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：前年度に引き続き、風力エネルギー学会規定の更新を行った。

- ・ **企画・運営委員会**：「産総研福島再生可能エネルギー研究所」及び「会津若松ウインドファーム」の見学会を開催した。見学会は、国立研究開発法人産業技術総合研究所殿、エコ・パワー株式会社殿の多大な協力を得て行い、北海道、関西を含めて39名が参加した。また、第39回風力エネルギー利用シンポジウムを開催した。例年通り初日は官公庁から国の取り組みに関する基調講演の他、「風力発電の大量導入時代に向けて」と「40周年記念セッション」をテーマとして大学、民間、本会理事からの講演、2日目は一般研究発表の場に、新たに人材育成の観点から英語セッションを設けて、学術論文発表が行われた。参加者は2日間全体で365名であった。さらに、平成30-31年度役員選挙のために、代表委員選挙および理事選挙を行った。
- ・ **編集委員会**：7回の委員会及び3回の準備会を開催、40周年記念号の企画や学会誌・論文集の編集方針等について検討した。なお、40周年記念号は「日本風力エネルギー学会この10年間 これからの10年間」の特集を組んで、第123号に掲載した。学会誌は予定通り4回発行した。学会誌の特集の内容は、後述する「学会誌・論文集の発行」の通りである。
- ・ **学術・事業委員会**：NEDOより「浮体式洋上風力発電に関する調査」を受託し、関連分野の10人の会員で構成するワーキンググループにて調査を実施した。また、前年度に引き続き、風力エネルギーハンドブック研究会にてWind Energy Handbook（第2版）の翻訳を行った。発刊と講習会は次年度に延期することとした。
- ・ **国際・広報委員会**：原則として毎月第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計11回開催した。国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体（WWEA（世界風力エネルギー協会）とGWEC（世界風力会議））との交流と協力を行った。特に2017年にはグローバル・ウインドデイは10周年を迎え、日本も過去最多の34イベントを開催、過去10年の参加者累計は1万人を越えた。出前授業も16件実施した。
- ・ **表彰委員会**：本会規程に基づき、功労賞、論文賞、優秀発表賞、ポスター賞及び出版賞とともに、40周年記念行事の一環として「日本風力エネルギー学会40周年特別表彰」を実施した。また、学会外においても、本会が後援する風力発電コンペ（WINCOM2017）において日本風力エネルギー学会特別賞の表彰とともに、初めての試みとして日本学術振興会賞への推薦を実施した。今年度は委員会を5回、作業会を7回開催し、表彰時期の見直しや新たな表彰（学会賞、研究奨励賞）の創設も含め、本会の表彰制度の在り方について検討するとともに、表彰規程等の改正を実施した。
- ・ **論文委員会**：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。平成29年度は投稿論文13件を審査した（内4件掲載、9件審査中・返却等）。なお、平成29年度は前年からの審査持ち越し2件を含め6件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌・論文集の発行（第41巻）

- ・ 第1号（通巻121号）Vo. 41 No. 1 2017年5月発行 825部
特集：NEDOプロジェクト「洋上風況観測システム実証研究（洋上風況マップ）の紹介」、
「風力発電設備に関する認証・規格類」
- ・ 第2号（通巻122号）Vo. 41 No. 2 2017年8月発行 800部
特集：IEA Wind TCPにおける取り組み
- ・ 第3号（通巻123号）Vo. 41 No. 3 2017年11月発行 820部
特集：日本風力エネルギー学会この10年間 これからの10年間
- ・ 第4号（通巻124号）Vo. 41 No. 4 2018年3月発行 800部
特集：40周年記念行事

4. 第39回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・ 主 催： 日本風力エネルギー学会
- ・ 協 賛： 日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- ・ 後 援： 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、
日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進
市町村全国協議会（五十音順）
- ・ 開 催 日： 12月6日・12月7日
- ・ 開催場所： 科学技術館／東京
- ・ 参加者数： 365名

5. 再生可能エネルギー2017国際フォーラム及び、第6回国際風力発電展（第12回再生可能エネルギー世界展示会内）の開催への協力

- ・ 7月5日～7日にパシフィコ横浜で開催の再生可能エネルギー2017国際フォーラムにおいて、本会のPRブースを出展するとともに、5日の風力フォーラム（「風力発電がかかえる課題と期待をつぶさに紹介」）には本会として協力し、石原孟会長が「日本風力エネルギー学会の取り組み」、上田悦紀理事（国際広報委員長）が「国内外の風力発

電導入状況の紹介」について、それぞれ講演を行った。

- ・2月28日～3月2日に東京ビッグサイトで開催の第6回国際風力発電展同展示会（第12回再生可能エネルギー世界展示会内）において本会のPRブースを出展するとともに、専門技術セミナーには本会として協力し、28日には石原孟会長が「日本における浮体式洋上風力開発の最新動向」、1日には安田陽理事が「風力発電をめぐる系統連系の最新動向～何が問題で、なぜ問題になるのか」について、それぞれ講演を行った。

6. 風力関連学会の国際会議への本会役員等の参加協力等

- ・ AWEA Windpower 2017 (GWEC 理事会を併催) 2017 5/22～25 米国・アナハイム (上田理事が参加)
- ・ Offshore Wind Energy 2017 2017 6/6～8 英国・ロンドン (荒川理事が参加)
- ・ WVEC2017 (WWEA 理事会を併催) 2017 6/12～15 スウェーデン・マルメ (荒川理事が組織委員)
- ・ RE2017 第12回再生可能エネルギー世界展示会・風力フォーラム 2017 7/5～7 横浜市 (石原会長・上田理事が発表)
- ・ 関西 WIND EXPO 2017 (風力市町村協議会の風力シンポを併催) 2017 9/20～22 大阪 (石原会長が発表)
- ・ China Wind Power 2017 (GWEC 洋上 Workshop を併催) 2017 10/17～19 中国・北京 (上田理事が参加)
- ・ WindEurope Summit 2017 (GWEC 理事会を併催) 2017/11/27～30 オランダ・アムステルダム (上田理事が参加)
- ・ 3rd Asia Offshore Wind Day in Tokyo 2018 1/25 東京都 (上田理事が発表)
- ・ WIND EXPO 2018 2018 2/28～3/2 東京都 (石原会長が発表)

7. 見学会の実施と参加

- ・ 本会主催見学会：10/6 産業技術総合研究所「福島再生可能エネルギー研究所」及びエコ・パワー㈱「会津若松ウインドファーム」の見学

8. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・ 風力発電推進市町村全国協議会 (6/28) (三保谷副会長が参加・挨拶)
- ・ 青少年のための科学の祭典 2017 全国大会 (科学技術館) に出展 (ウインドデイ行事を兼ねる) 7/29～30 東京都 (今村理事が参加)

9. 国内の風力関連事業への支援 末尾の括弧内は JWEA の支援形態を示す。

- ・ ISWL2017 (International Symposium on Winter Lightning) 2017 4/12～14 上越市 (電力中央研究所・東京大学) (協賛)
- ・ 世界ウインドデイの一環の日本行事 2017 4月～10月 (日本風力発電協会と共同実施)
- ・ 第18回風力エネルギー利用総合セミナー 2017 6/29・30 (足利工業大学総合研究センター) (後援)
- ・ 第12回再生可能エネルギー世界展示会 2017 7/5～7 パシフィコ横浜 (再生可能エネルギー協議会/展示会へ出展、世界会議等への協力) (協賛)
- ・ 第26回日本エネルギー学会大会 2017 8/1・2 名古屋市 (日本エネルギー学会) (協賛)
- ・ 第23回流れのふしぎ展 2017 8/17・18 東京都 (日本機械学会) (協賛)
- ・ WIND EXPO 2017 第1回関西風力発電展 2017 9/20～22 大阪市 (リード エグジビション ジャパン (株)) (後援)
- ・ 風力発電シンポジウム「地域社会と風力発電」 2017.9/22 大阪市 (風力発電推進市町村全国協議会、日本風力発電協会) (後援)
- ・ 日本地熱学会 平成29年学術講演会 2017 10/18～20 函館市 (日本地熱学会) (協賛)
- ・ 平成29年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー学会合同研究発表会 2017 10/25・26 長岡市 (共催)
- ・ 第10回風力発電コンペ WINCOM2017 2017 11/5 習志野市 (日本大学生産工学部) (後援)
- ・ 第1回講習会 2017 11/24 東京都 (エネルギー・資源学会) (協賛)
- ・ WIND EXPO 2018 第6回国際風力発電展 2018 2/28～3/2 東京都 (リード エグジビション ジャパン (株)) (後援)
- ・ 国際ワークショップ (WRDM: International Workshop on Wind-Related Disasters and Mitigation) 2018 3/11～14 仙台市 (日本風工学会) (後援)

10. GWEC (世界風力会議)

- ・ GWEC Japan 運営委員会を日本風力発電協会と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・ GWEC 協賛の国際イベント (AWEA Windpower 2017、China Wind Power 2017、WindEurope Summit 2017; いずれも理事会等の行事を併設) に参加した。

- ・年次統計 (Global Wind Statistics)、年次報告書 (Global Wind Report)、メルマガ (GWEC News Letter) 等に日本情報を提供した。
- ・GWEC からの情報連絡 (GWEC News Letter、WindLog) を日本の風力関係者に配信した。
- ・世界ウインドデイ行事 (Global Wind Day) の日本行事 34 件の開催に日本風力発電協会と共同で企画・協力した。

1 1. WWEA (世界風力エネルギー協会)

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力、理事会にも参加した。
- ・WindEurope (欧州風力協会) には年会費高騰により加盟を休止した。
- ・AsiaWEA (アジア風力協会、2016 年 12 月に新規発足) の洋上風力国際会議 (1 月 25 日東京) に初参加した。本学会が加盟する程のメリットは認められず。したがって今後は同団体の台湾洋上風力関係のイベントのみフォローする。

1 2. 表彰の実施

- ・本会の総会、日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2017 及び第 39 回シンポジウムにおいて、以下のとおり各賞の表彰を行った。
 - ・平成 29 年度総会 (5 月 29 日)
 - 平成 29 年度 功労賞：鈴木茂行氏、中村成人氏、松村博久氏
 - 平成 28 年度 優秀発表賞：稲留将人氏、藤本修平氏、湯上訓平氏
 - 平成 28 年度 出版賞：安田 陽氏
 - ・風力発電コンペ WINCOM2017 (11 月 5 日)
 - 日本風力エネルギー学会特別賞：足利工業大学附属高等学校チーム (高校生の部)
 - ・第 39 回風力エネルギー利用シンポジウム (12 月 6 日)
 - 日本風力エネルギー学会 40 周年特別表彰：牛山 泉氏

1 3. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌及び論文集 (通巻 118 号まで)、シンポジウム予稿集 (第 38 回まで) の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。

1 4. 風力発電の出前授業活動

- ・一般・学生向けの風力発電の講義を、青森市、福島市、いわき市、新潟市、松戸市、横浜市、大阪市、北九州市、西海市、五島市で実施した。ペットボトル風車の工作教室を、東京都 (科学の祭典)、松戸市、横浜市、横須賀市、五島市で開催した。その多くは日本風力発電協会 (JWPA) と共同でウインドデイ行事として行った。

1 5. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について、更新・修正を行った。

1 6. 会員の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・特別団体会員：10 団体 (前年度末 8 団体)
 - 清水建設(株)、Svendborg Brakes ApS、ゼネラル エレクトリック インターナショナル、電源開発(株)、(一財)日本海事協会、(株)日立製作所、日立造船(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラス エナジー ホールディングス
- ・団体会員：72 団体 (前年度末 65 団体)
- ・個人会員：408 名 (含、学生会員 43 名/特別会員 5 名) (前年度末 429 名；含、学生会員 43 名/特別会員 4 名)
- ・海外会員：2 名 (前年度末 2 名)
- ・名誉会員：6 名 (前年度末 2 名)
- ・購読会員：8 名 (前年度末 8 名)

日本風力エネルギー学会 2018(平成30)年度 事業計画(案)

(自：2018(平成30)年4月1日 至：2019(平成31)年3月31日)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・年数回の理事会、年1回の代表委員会、総会を開催する。

2. 委員会等の開催

- ・年数回の委員会（企画・運営、編集、学術・事業、国際・広報、表彰、論文）を開催する。

3. 学会誌・論文集の発行（第42巻）

- ・第1号（通巻125号）2018年5月発行 800部
- ・第2号（通巻126号）2018年8月発行 800部
- ・第3号（通巻127号）2018年11月発行 800部
- ・第4号（通巻128号）2019年2月発行 800部

4. 第40回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主催：日本風力エネルギー学会
- ・協賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（予定）
- ・後援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（予定）
- ・開催日：12月4日～5日(予定)
- ・開催場所：科学技術館／東京

5. 研究会の開催

- ・風力エネルギーハンドブック研究会：Wind Energy Handbook（第2版）を翻訳し、風力エネルギーハンドブックを発刊するとともに、技術講習会を開催する。

6. グランド再生可能エネルギー2018 国際会議と併設第13回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

- ・6月17日～22日にパシフィコ横浜で開催される同国際会議の推進、並びに同展示会には展示ブースの出展など共催団体として協力する。

7. 風力関連学会の国際会議への本会役員等の参加協力等

- | | | |
|---|---------------|------------|
| ・浮体式洋上風力世界大会（FOWT2018） | 2018 4/25～27 | フランス・マルセイユ |
| ・AWEA WINDPOWER 2018（GWEC 理事会を併催） | 2018 5/7～10 | 米国・シカゴ |
| ・WIND EXPO 2018 第2回関西風力発電展 | 2018 9/25～28 | 大阪 |
| ・WindEurope 2018 Conference & Hamburg Messe | 2018 9/25～28 | ドイツ・ハンブルグ |
| ・China Wind Power 2018（GWEC 理事会を併催予定） | 2018 10/17～19 | 中国・北京 |
| ・WWEC2018（WWEA 理事会を併催） | 2018 11/28・29 | パキスタン・カラチ |
| ・WIND EXPO 2019 第7回国際風力発電展 | 2019 2/27～3/1 | 東京 |

8. 見学会の実施

- ・本会主催の見学会を実施する。従来の風力発電所だけでなく、主に学生会員を対象に風車や構成機器の工場の見学も企画する。日本風力発電協会（JWPA）と共同実施のウインドデイ活動との協調を工夫する。

9. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・風力発電推進市町村全国協議会の総会（7～8月）・全国風シンポジウム（予定）に参加する。
- ・青少年のための科学の祭典 7月28～29日（科学技術館）に出展する。
- ・出前授業・風車工作教室等はより広範囲にイベントを企画・実施する。
- ・日本機械学会の機械工学年鑑、JST 研究開発戦略センター（CRDS）の環境・エネルギー分野の俯瞰報告書等の各種団体の年間報告書に対し、風力発電関連の原稿を提供する。

10. 国内の風力関連事業への支援

- | | |
|-------------------------|------------------------------------|
| ・世界ウインドデイの一環の日本行事 | 2018 5月～9月（日本風力発電協会と共同実施） |
| ・第19回風力エネルギー利用総合セミナー | 2018 6/28・29 足利市（足利大学総合研究センター：後援） |
| ・グランド再生可能エネルギー2018 国際会議 | 2018 6/17～22 パシフィコ横浜（再生可能エネルギー協議会） |

- 共催)
- ・第 13 回再生可能エネルギー世界展示会 2018 6/20～22 パシフィコ横浜(再生可能エネルギー協議会：協賛) 展示会へ出展、世界会議等への協力
- ・第 27 回日本エネルギー学会大会 2018 8/8・9 東京都(日本エネルギー学会：協賛)
- ・WIND EXPO 2018 第 2 回関西風力発電展 2018 9/26～28 大阪市(リード エグジビション ジャパン(株):後援)
- ・平成 30 年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー学会合同研究発表会 2018 11/8・9 松江市(共催)
- ・第 11 回風力発電コンペ WINCOM2018 2018 11/4 習志野市(日本大学生産工学部：後援)
- ・第 25 回風工学シンポジウム 2018 12/3～5 東京都(日本風工学会：協賛)
- ・WIND EXPO 2019 第 7 回国際風力発電展 2019 2/28～3/2 東京都(リード エグジビション ジャパン(株):後援)

1 1. GWEC (世界風力会議)

- ・GWEC Japan 委員会を日本風力発電協会と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力する。
- ・GWEC 協賛の国際イベント (AWEA Windpower 2018、China Wind Power 2018 等) に参加する。
- ・年次統計 (Global Wind Statistics)、年次報告書 (Global Wind Report)、メルマガ (GWEC News Letter) 等に日本情報を提供する。
- ・GWEC からの情報連絡 (GWEC News Letter、WindLog) を日本の風力関係者に配信する。
- ・世界ウインドデイ行事 (Global Wind Day) の日本における開催に日本風力発電協会と共同で企画・協力する。

1 2. WWEA (世界風力エネルギー協会)

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力する。

1 3. 表彰の実施

- ・本会規程に基づき功労賞、論文賞、優秀発表賞およびポスター賞の表彰を実施するとともに、本会が後援するイベント等において、日本風力エネルギー学会特別賞等の表彰を行う (論文賞、優秀発表賞、ポスター賞は既に学会誌、HP で公表済み)。
 - ・平成 30 年度総会 (5 月 28 日)
 - 功労賞：江口英範氏、遠藤 昭氏、菊山功嗣氏、谷垣三之介氏
 - 論文賞：槌屋治紀氏
 - 優秀発表賞：一柳絵美氏、加藤茉里氏、森山喬史氏
 - ポスター賞：斎藤亮太氏ほか、嶋田進氏ほか、和田光樹氏ほか
 - 出版賞：該当なし
 - ・第 11 回風力発電コンペ WINCOM2018 (11 月 4 日)
 - 日本風力エネルギー学会特別賞
- ・新たに創設した学会賞および研究奨励賞につき、表彰規程に則り選考作業を進める。
- ・平成 29 年度までに、表彰時期の見直しや新たな表彰の創設等を含む表彰規程の改正を行ってきたが、今年度も引き続き、本会の表彰制度の在り方や、学会外の表彰への取り組み等について検討する。

1 4. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌及び論文集、シンポジウム予稿集の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献する。

1 5. 風力発電の出前授業活動

- ・年間 10 件以上の出前授業の実施を目指す。教材の充実と講師役の育成を図る。

1 6. ホームページの充実

- ・本会ホームページの更新、内容の充実を行う。

1 7. 論文集の充実

- ・15 件程度の投稿を目指す。